

## 第4章 アクションプラン

### 1 提案事業

第3章で掲げた基本理念と将来都市像を踏まえ、「暮らす人も、訪れる人も快適なまち『快国』下田」を実践するための基本方針に沿ってアクションプランを提案します。

#### 方針1 下田らしい観光まちづくりを実践します。

1-(1) 地域の特色を活かした魅力ある観光まちづくりを進めます。

項 目	取 り 組 み 内 容
豊かな自然を活かす	快適で安全な海水浴場を開設します。
	マリンスポーツを推進するとともに、各種大会の誘致に努めます。
	年間を通じた多様な海の魅力を磨き、活用します。
	自然体験プログラムを一元化し、下田独自のメニューを提供します
	豊富な海産物を活用し、下田ブランドを確立します。
	豊富で多様な温泉を活用します。
	放置竹林、荒廃森林対策を行い、豊かな自然を継承します。
美しい景観を活かす	海岸線、山並みなどの美しい自然景観を守り、活用します。
	なまこ壁や伊豆石造りの町並み景観を守り、活用します。
	耕作放棄地を解消し、里山の景観を保全します。
	下田まち遺産を守り、活用します。
	美しい景観を広報し、ロケ等の誘致を推進します。
	市民、事業者、各種団体と協働して花の名所をつくとともに、花いっぱい運動やゴミ拾い運動を推進します。
歴史文化的資源を活かす	開港の歴史、史跡、史実を活かし、開国のまちづくりを推進します。
	アメリカ・ロシアとの交流を推進します。
	ボランティアガイド協会と連携し、後継者を育成します。
	下田太鼓祭り河内手筒花火や芸妓文化などの下田独自の伝統文化を継承し、下田の魅力として発信します。

豊富な食材を活かす	金目鯛のブランド化を推進します。
	地場産品を活用した特産品の開発を推進します。
	地場産品の地産地消を推進するとともに、交流都市等を通じた物産交流を推進します。
着地型・周遊観光を実践する	下田を快適に楽しく過ごすための観光スタイルを提案した30カラーズを活用し、着地型商品を開発します。
	伊豆地域の連携を強化し、効果的な情報発信を推進します。
	周辺市町と連携し、周遊型観光を推進します。
	伊豆半島ジオパーク推進協議会の一員として事務局と連携し、世界ジオパーク認定に必要な事業を推進します。

1-(2) 新たな魅力の創出によるまちの活性化を図ります。

項目	取り組み内容
観光スポットを見直す	30カラーズを充実し、新たな観光スポットを提案します。
イベントを見直す	水仙まつり、あじさい祭等の既存のイベントを評価・検証し、魅力的なイベントにリニューアルします。
参加体験観光を促進する	下田市自然体験活動推進協議会を再編成し、体験メニューを充実します。
	下田市教育旅行協議会と連携し、教育旅行を積極的に誘致します。

1-(3) 外国人旅行者の誘致を進めます。

項目	取り組み内容
外国人旅行者の受入環境を整備する	看板・案内等の多言語化を推進するとともに、外国人旅行者受入団体等への外国語研修等を開催します。
	スポット型観光から参加体験型観光に転換します。
外国人旅行者の誘致を進める	国、県、広域組織と連携し、誘致活動を促進します。

## 方針2 すべての市民が連携して観光まちづくりを進めます。

2-(1) 地域や各種産業が連携し、観光まちづくりを進めます。

項目	取り組み内容
地域全体で観光まちづくりを推進する	既存の枠にとらわれない実行力のある組織・体制を設置します。

2-(2) おもてなしの心を育み、市民と観光客の交流を進めます。

項 目	取 り 組 み 内 容
おもてなしの心を育む	観光交流課が実施する「おもてなしプログラム」を積極的に活用し、市民のおもてなしの心を育みます。
	30 カラースを活用したモニターツアー、タクシーツアーを実施し、市民や観光客に下田の魅力や価値を伝えます。
	教育委員会や学校と連携し、子供たちを対象に、おもてなしプログラムを活用した郷土教育を推進します。

2-(3) 誰もが安全で快適に楽しめる観光空間を整備します。

項 目	取 り 組 み 内 容
歩行者空間を整備する	中心市街地の快適な歩行者空間や案内看板を整備します。
観光施設を改善、充実する	観光施設を定期的に巡回し、適正な管理を行います。
	老朽化した観光施設の整備計画を策定し、計画的な改修を行います。
	あじさい園、水仙園等の整備、管理を充実します。
	観光施設等のユニバーサルデザイン化を推進します。
自然災害への対策を強化する	津波浸水域での体験活動の安全対策を強化します。
	海水浴場開設時の避難・誘導対策を強化します。
	津波浸水域における避難誘導表示を整備します。

**方針3 まちのブランド化を進め、情報発信機能を強化します。**

3-(1) まちのブランド化を進めます。

項 目	取 り 組 み 内 容
まちのブランド化を進める	30 カラースの内容を充実します。
	国際的イベントを誘致します。
	各施策の実施内容を質の高い事業に改善します。
	リゾート地としての雰囲気作りを推進します。

3-(2) まち全体のブランドイメージを積極的に発信します。

項 目	取 り 組 み 内 容
ブランドイメージを発信する	ロケ誘致、取材協力を積極的に行います。
	ホームページをリニューアルします。
	質の高いパンフレットやチラシを作成します。
	旅行会社等と連携し、着地型商品を開発します。
	特産品の販売促進イベント等に参加します。
	ソーシャルメディアの活用を検討します。
	下田在住経験者等への情報提供を通じ、下田ファンを育成します。

3-(3) 広域組織等と連携し積極的に情報を発信します。

項 目	取 り 組 み 内 容
広域組織等と連携し、情報を発信する	広域組織の一員として国外での観光展に参加します。
	伊豆地域の市町と連携し、伊豆誘客共同キャンペーンに参加します。
	伊豆誘客共同パンフレットやチラシを作成します。
	市外団体等の持ち込み企画を誘致します。
	国、県の動向を注視し、補助金等を積極的に活用します。

## 2 提案プロジェクト

提案事業で掲げた内容は、観光を振興する上で必要な事項ですが、すべてを同時期に行うことは困難な状況です。本計画では、計画内容の実現性を強く求められていることから、下田らしい観光まちづくりを実践するために、優先して実施すべき事業をプロジェクトとしてまとめることとしました。

プロジェクトの策定にあたり、本市の豊かな自然は、市民の営みを支えるとともに、訪れる人の大きな魅力にもなっていることから、「美しい里山づくり」、「世界一の海づくり」「美味しいまちづくり」としてまとめました。また、本市の多様な魅力を掘り起こすとともに、効果的な情報発信を担うプロジェクトとして「30カラース」を位置づけました。

なお、中心市街地は食の魅力や地場産品を発信する拠点となるため、各プロジェクトと密接に連携するとともに、各プロジェクトが連携して本市の固有の歴史、文化や町並みなどの多様な魅力を発信し、まち全体のブランドイメージを創出する必要があります。